

審議会等会議録（概要版）

審議会等の名称	令和4年度第2回山口市公共交通委員会
開催日時	令和5年1月24日（火曜日）15時～16時30分
開催場所	山口総合支所 第2委員会室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	田中委員長、鈴木副委員長 他13名
欠席者	森栗委員、鈴木春菜委員、大原委員、井上委員、渡邊委員、松島委員、古谷委員、村上委員
事務局	山口市都市整備部交通政策課
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和4年度事業の進捗状況について 2 令和5年度事業計画及び予算（案）について 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> （1）吉敷地域コミュニティタクシー「コミタク良城」について （2）シェアサイクル実証事業について （3）第二次山口市市民交通計画の見直しの方向性 （4）地域公共交通調査事業について
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>【議事】</p> <p>1 令和4年度事業の進捗状況について</p> <p>○事務局 資料に基づいて説明</p> <p>【質疑等】</p> <p>○副委員長</p> <p>内容そのものは、これまでやってきたことが主である。ここ数年のコロナ禍の中でできなかったり、進められなかったこともあるので、そういう意味では取組をきちんとできたという気がしている。新しいことがなく、進歩がないようにも見えるが、ずっと続けてきたことは定着していることと、それなりの評価をいただいていることがあるので、定着している部分、評価をいただいている部分をきちんと検証しながら、次へ繋げていく必要があると思っている。一方で、どんな課題があるのかといったあたりを検証して、次へ繋げていくということが必要かと思う。</p> <p>昨年8月に、日本モビリティ・マネジメント会議があり、昨年は松江市で開催されたが、山口市も発表にエントリーし、こうした取組についてポスター発表させていただいた。かなり関心を持っていただいたことと、現地に総合時刻表を</p>

持って行って、来場者の必要な方には差し上げたところだが、これがかなり好評だった。そのモビリティ・マネジメント会議は、研究者だけでなく、自治体で取り組まれている方、あるいは交通事業者の方、さまざまな立場で交通に関わっている方が集まる場で、かなりの評価をいただいたことは、非常に大きなことなのではないかと、完璧にその地域の交通を網羅した時刻表を作っているケースは全国的にも少ないので、そういう意味での評価をいただけたのかなと思う。

来年度以降のことは、この後の議題の中で何をやっていくかについて話が出てくるかと思うが、今年度やってきたことを継続していく部分の一つがある。もう一つは、新たに課題になってきたことや解決しなければいけないことがそれぞれの地域で色々とあり、また、種だけ撒いて実っていないものも色々あるので、そういった意味で新たな取組を含め、継続していければいいと思っている。

○A委員

運転士の確保事業について、10月9日に開催された運転士体験会を昼から見させていただいた。運転士に関心がある方の様子を見させていただいて勉強になった。

こういう取組を一般の市民の方が見ることは難しいかもしれないが、市議会議員の方に見ていただきたい。市議会議員の方々が見に来られているのかについて関心があり、職員の方に聞いたら、午前中は1名、午後にもう1名来られ、市議会議員34名のうち、2名しか来られなかったということが残念なことだと思った。私は議会を傍聴することもあるが、公共交通のことを市の方へ質問される方はおられるが、実際に市が一生懸命運転士の確保の事業をやっておられるということを見てから議会で質問していただきたいと強く感じた。

この事業報告の中で、総来場者が37名となっているが、実際に運転士になられた方がおられたか。

○事務局

イベント終了後に各事業者の皆様にヒアリングをさせていただき、面接まで進んだ方が1名いらっしゃることを聞いている。こうしたイベントにつきましては、すぐに結果に結びつくものではないと考えておまして、参加された方のライフステージの転換点だとか、そういう部分で将来的に運転士というものも選択肢に加えてみようかなというところで、そういうきっかけづくりを我々としては進めていければと考えている。地道にこうした取組をしていくことが大切だろうと考えている。

過去には採用に至ったケースがあることは聞いている。

○A委員

運転士体験会の際に、ガスのタクシー車両について見させていただいて、車体

がイギリスのタクシーを真似たような形状だったと記憶している。また、ガス車の車検の難しさをお聞きした。タンクを外して、タンクを検査しなければならない。そのためには内張など全部外してタンクを外すという作業があると言われた。なかなかガス車の車検というのは難しいのだなと勉強になった。

○B委員

車検については1年車検、その間に3か月毎に法定点検をしている。ガスボンベに関しては7年。昔は40万キロ又は4年で替えていたが、今は売り上げも少なく、距離も走らないといけなということで、8～10年使っているのでも、どうしてもガスボンベの点検がある。ガスボンベを外しての点検は一週間から10日間かかり、費用は20万円程度かかる。

車両に関しては、ユニバーサルデザインタクシー（UDタクシー）が数年前から言われていて、もともと東京オリンピックを契機に東京では普及している。

○A委員

7ページの市職員のエコ通勤の推進について、山口市は県庁や市の職員が多いので、朝の通勤や夕方のラッシュがあると思うが、山口市総合計画の後期基本計画の委員会を傍聴させていただいて、その中で朝夕の交通ラッシュは何とかならないかといった議題があったが、大学の先生が、市の職員になるべくマイカー通勤を断念してもらうように、交通費をアップしたらどうかというようなことを市に言われた。要するにマイカーを使わないから交通費を下げるのではなく、マイカーを使わない代わりに交通費を上げるという風なことを言われたが、それはちょっと違うんじゃないかなと感じた。

山口市の職員の通勤費は車で4キロ未満の方が3,500円、一番遠い方の78キロが4万6千円で多分こういう方はおられないと思うが、合併で阿知須町から阿東町まで全部山口市になったので、職員の配置というか、阿東の方が小郡や秋穂の支所に勤務ということがあるのか。

○事務局

我々がいわゆる人事の部局ではないので、詳細についてはお答えしかねるが、実際、南部の職員が北部の総合支所に勤めているという事例はある。

承認

2 令和5年度事業計画及び予算（案）について

○事務局

資料に基づいて説明

【質疑等】

意見なし

承認

3 報告事項

(1) 吉敷地域コミュニティタクシー「コミタク良城」について

○事務局

資料に基づいて説明

【質疑等】

○B委員

昔から度々言っているが、目標設定は当然必要だと思うが、数字にとらわれて目標数字に合わせるために、コミュニティバスやコミュニティタクシーというのは、本来は交通空白地域を通るのだが、人が多い所を通ったり、また、弱者切り捨てで、やっと公共交通ができて走ったところが廃止になっていく。今回は廃止ということよりも便数の減少なのだが、恐らく減少された便に乗られていた方は、1名から2名くらいおられると思うので、その方のフォローがきちんとできているかどうかということが大切だと思う。

阿知須が縮小になったときは、おでかけとかそういうもののタクシー券が配布できるような条件になったが、このように便数が減った場合は、公共交通が通っているということで、何らかのタクシー券の補助とかもないので、目標よりも1人でも2人でも助けるということを重要視していただきたい。

○事務局

実際1便減らしてコミュニティタクシーを運行することをコミタク良城はされたが、おっしゃるとおりで無くなった便に乗られていた方もゼロではないので、そういうご不便になった方はいらっしゃると思われる。こうした中で、地域負担があるということとか、公的な支出と利便性のバランスというところもあるので、結局、今の形になってスタートさせていただいたということである。ただ、地域の方でも、地域の皆様の利便性については充分意を配して運営されており、始まってからも地域内でアンケートを取られるなど、現状のままの姿でいいのかということについては常に意識されながら運営を今のところ進めておられるので、そうした中で、現状でも乗車率がいい状況ではないが、今後こういったものがある程度定着してきて、軌道に乗った段階で増便ということであれば、そういった相談にも乗れるのかなと思っている。当面はさらなる乗車率の向上にまずは地域として注力して進めていきたいと伺っているので、市としてもしっかり支援していきたいと考えている。

○B委員

協議会とか意見を言われる方は交通強者であり、会議の場所に、今日なども雪が降っていても来れるというのはマイカーを持っていたり、そういう場所に来れない本当の交通弱者の意見はアンケートを回しても、お年寄りが書かずに若い人が書いて提出しているので、本当の交通弱者の意見を聞くということはすごく大変である。モビリティ・マネジメントを各地域でやっても、その地域交流センターに来られる方は、本当に困っている方ではない方が多い。市民の声ということを行政の方が良く言われるが、個々の声を取り上げるような形をこれからも十分やっていただきたいと思う。

○事務局

そのあたりよく留意して進めてまいりたい。

○A委員

質問ということではないが、私の住んでいる宮野にはJR山口線が走っている。山口線が去年の7月に津和野まで開通100周年の時は、宮野地域では宮野駅にみんなが集まって、提灯を持ったりいろんなことをして、お祝いムードだった。SLが土曜日、日曜日の朝11時15分位と夕方5時位に走るの、観光客の方にみんなが手を振ったりしている。

でもやっぱり、夕方とか「おき」が走るとなかなか乗客が乗っておられない。JRの赤字路線のこととか言われていたニュースを見たこともある。萩を往復するJRバスが走っているのを見ることもあるが、お客さんが一人か二人ということがあって、非常に悲しい気持ちがある。公共交通って大切だなと思っている。

ちょっと話は前後するが、アンケート調査とあるが、大体市民に対して何名の方を対象にアンケート調査を実施されるのか。

○事務局

アンケート調査については発送件数ベースで5,000件を想定している。

○A委員

5,000件の市民の方が切手を貼って送るようなことはされないと思うが、市民の方も関心を持たないといけないということもある。地域福祉審議委員をやっていて、福祉の方でもアンケートをやるということがあるが、回収率が40%位であり、やはり市がアンケート調査をする場合は、市民も自覚をもって回収率を上げていくような心掛けをやっていかないといけないと思っている。一緒にみんなが公共交通を考えていこうという気持ちが大切だと思っている。

○事務局

御指摘のとおり、折角送るアンケートなので、多くの方から回答いただけるというような形で考えていきたいと思っている。そうした中で、従来のように返信封筒を入れて手で書いたものを送り返してもらうというものに加えて、最近はスマートフォンをお持ちの方も多いため、ウェブで答えてすぐに返してもらうという簡単に答える方法やアンケート自体のボリュームについても、初めから見ただけで嫌になるようなアンケートでも困るので、そういった部分で工夫をしながら、アンケートを実施できればと考えている。

(2) シェアサイクル実証事業について

○事務局

資料に基づいて説明

【質疑等】

意見なし

(3) 第二次山口市市民交通計画の見直しの方向性

○事務局

資料に基づいて説明

【質疑等】

○副委員長

資料「地域公共交通の現状と今後の課題」については、市民交通計画は国の位置づけでいうと、これまでの網形成計画から地域公共交通計画に位置づけが変更になるが、この地域公共交通計画をこれから策定しようという所でどんなことに留意したらいいのかということを講演して欲しいと言われたときに使った資料をそのまま持ってきている。これから市民交通計画を中間の状況に合わせて改定したり、あるいは継続していくにあたって、改めてどんなことに留意していく必要があるのかというようなことを、事務局からの説明のような形で進めていくことでよろしいかと思っているが、私の視点で整理し直したものをお示ししておきたいと思いこの資料を用意した。

なぜなら、現在の市民交通計画を策定した時点と今というのは、その間にコロナ禍という非常に大きなインパクトのある状況変化、社会変化がある。これによって人の移動の仕方、生活の仕方、それから交通事業の状況、こういったものは大きく変化してしまっているところがある。これは一定程度前提として考えざるを得ない。だからといって市民にとって必要な交通というのが、ニーズであったり必要とされている交通ネットワークはきちんとある訳で、そのあたりをどのように整合させていったらよいかといったあたりをこれから議論していく必要があ

と思う。

そういう意味で、スライド番号3に全体として共有しておかないといけないところでまとめたのが、そういった社会状況の変化とそういう中で地域に求められることは何かというあたりのことである。

スライド番号10では、そういう状況変化がある中で、何を考えないといけないかというあたりのことを整理している。社会変化、状況変化の中で、考えておかなければいけないことは、限られた資源を有効に使うという視点を持ちながら計画を立てていかないと、持続的で効果のある施策ができないということである。

これはつつい過去計画策定などの経験から、少しでもプラスに新たなことを付け加えていきたくあるが、それが現実的ではない状況にもなっていてしまっている。その代わり、現状でまだ上手に使えるものがたくさんある訳で、これをいかに効果的に使っていくか使って計画を作っていくかというあたりのことが非常に大事になってくるのだろうと思っている。

そういう中で、計画をこれから作っていくに当たってどんなことに、どんな点に注意しながら進めていく必要があるのかというあたりがスライド番号11から書いてある内容で、この検証項目が11番までであるが、山口市はこういったことに留意しながら計画を作ってきており、だからこそ山口市の事例がこの中にはたくさん入っている。

これは、改めてこういったことを念頭に置いて一つ一つ検証しながら今後議論を進めていただければ、より効果的かつ市民のためにもなり、事業も継続できるような計画に育てられるのではないかと思いますので、私も今後議論を進めていく中で、私なりに検証項目を頭の中でチェックしながら意見を言わせていただこうと思っているが、少しそういった整理をした視点で検証項目を見ていただければと思います、用意させていただいた。

(4) 地域公共交通調査事業について

○事務局

資料に基づいて説明

【質疑等】

○A委員

ラッピングのコミュニティバスがあるが、ラッピングのバスはいつ頃まで使われるのか。

○事務局

ラッピングにつきましては、市の文化交流課が所管して行っている事業で、次のラッピングが何かあるまでは現状のまま続くという形になるかと理解している。

	<p>○委員長 ラッピングについては、文化交流課の事業もありますし、環境部のクールチョイスの取組のものもある。</p> <p>【その他】</p> <p>○事務局 情報共有として以下の項目について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなモビリティサービス調査・実証事業について ・リシンククリエイタープロジェクト2022 ・中国運輸局環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰
<p>会議資料</p>	<p>令和4年度（第2回）山口市公共交通委員会議事次第 他</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>都市整備部 交通政策課 TEL 083-934-2729</p>